



団体名 **子は宝プロジェクト**

事業名 **子は宝フェス vol.2** [令和2年度コラボ70補助金活動]

事業の紹介



補助金額 **65.8万円** / 総事業費 **92.2万円**

未来を創る子供達が心豊かに健やかに育つ機会の提供や学びの場や環境づくりを目的として、活動を始めました。

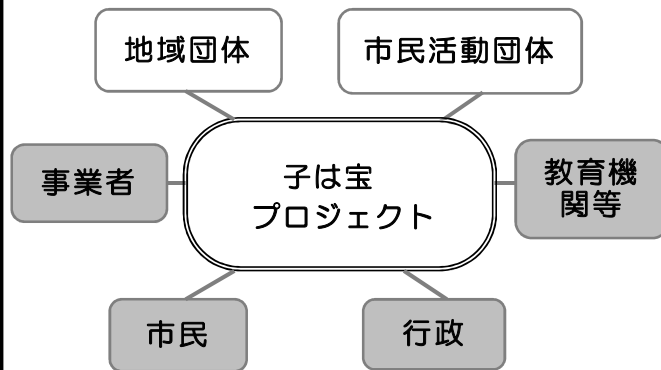
2日間にわたり、様々なプログラムが展開されました。「マジカルスクール」では親子50組を対象に、映像やゲームで楽しみながら「できるんだ」という小さな成功体験を積み重ねていきます。親子で一緒に参加することで、日ごろから子どもを応援し、見守る環境づくりにつなげます。

「かりや夢ファンド補助金」は講師への謝礼や小学校に配布するチラシ製作費等として活用されました。



「マジカルスクール」の一場面

協働の役割分担



行政 〈役割〉	◇刈谷市教育委員会 〈チラシを学校等へ展開〉 ◇刈谷市社会福祉協議会 〈子育て支援、女性活躍PR〉 ◇刈谷市商工会議所 〈企業へ女性参加を依頼〉
事業者 〈役割〉	◇(一社)刈谷青年会議所 〈フェス開催運営支援等〉
市民	〈参加、ボランティア協力〉
教育機関等	愛知教育大学祭サークル 〈イベントコーナー運営〉

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

- ・代表の立川さんが7人の子育てで感じたこと、その間のたくさんの出会いが起源です。
- ・子育て後に感じた自分の気持ちに素直に向き合い、自分らしく生きる道を模索する中で活動を始めました。
- ・子ども・若者の意識調査では、うまくいくかわからないことに対して意欲的に取り組む意識が低いとされ、夢を持って生きていくことを伝えたい、と開催に至りました。
- ・「はらたかこ」→子はタカラさんに出会えたことは、背中を押してくれました。

こんな準備をして取り組みました

- ・これまで培った人脈を活かして、行政及び青年会議所等へ協力を働きかけ、フェス開催及び運営支援を得ました。
- ・1回目の活動では運営支援を受けて次につながるヒントを獲て、今回は運営面を主体的に取り組みました。
- ・小学校でチラシの配布には教育委員会の後援が必要なのが前回の経験から分かったため、申請して後援をいただくことができました。

こんな点を工夫しました

- ・みんながやりたい事、喜ぶことをやろうとの気持ちを常にコアメンバーと心に留め置き共有しました。
- ・コロナ影響で開催を延期したことで、スタッフ・ボランティアのモチベーション維持のためにミーティングをオンラインとして定期開催しました。
- ・ボランティアクルーに対し丁寧に役割分担や心得を伝えていきます。活動は不参加でも見るだけの見守り隊を設置しました。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>



こんな活動をしました！

日時：3月29日（月）13時00分～20時00分 / 30日（火）10時～15時30分

場所：刈谷市産業振興センターあいおいホール

参加者：1日目 親子50組（限定）

2日目 200名（マルシェ出展者含む）

運営者7名 ボランティア30名

広報媒体：チラシ（小学校配布 [各30部]、町内回覧）、YouTube、Facebook、口コミ等

現場の様子

事業概要 【取材に伺った1日目の内容をご紹介します】

- ・マジカルスクール：夢のかなえ方疑似体験
- ・森源太ライブ
- ・「マジカルスクール」では、いくつかのグループに分かれて進行され、講師は子供達のどんな発言にも拍手と前向きな言葉を掛け、子供達が夢を持ちあきらめずにチャレンジし続けることを後押ししていました。

こんな効果が生まれました

- ・参加している子供の親から口コミで参加者が拡がりました。リピーター参加が多く、いずれはスタッフとして参加を期待しています。
- ・親子で一緒に参加することで、共通言語・意識を持てます。子どもたちが夢は叶うと実感する、親がその姿をみて、気づきを得て身近な環境づくりにつながります。
- ・子育ての悩みを分かち合う親同士の交流の場にもなっています。

こんな課題がありました

- ・1年前から申請準備を始め、コロナの影響で延期、見通しが立たない状況からスタッフのモチベーションが低下し、一時解散しました。顔をあわせて話ができなかったことが大きかったです。コロナを踏まえ人が集う場としてフェス定期開催は当面の課題です。
- ・再延期で会場の確保は困難を極めました。
- ・チラシの配布が予定通りに進められず調整に苦労しました。配布を工夫して、市内からの参加につなげたいです。

今後に向けて

- ・子どもが気軽に参加できるよう、回数を増やしたいです。
- ・物心ついたころから定期的に性教育を通して、命の大切さ、相手を尊重することを伝えたり、初めての出産などで不安な時話し相手になって寄り添う「産後ヘルパー」事業も取り組みたいと考えています。
- ・「未来授業」として身近な大人からキャリア教育を行い、地域で信頼できる人との出会いを育み、『子は宝』につなげていきたいです。

参加者の声

- ・マジカルスクールに参加し帰宅後、親子の会話が弾みました（第1回参加者）
- ・普段見られない子どもの姿や人前で自分の意見を伝えている様子を見ることができてよかったです。（親）
- ・自分の意見が話せたとし、聞いてもらえた。楽しかったです。（子）

主催団体の声

- ・夢をかなえる気持ちを持ち続けてほしいです。
- ・コロナ禍で当たり前のことを見直す機会を皆に平等に与えられた今、工夫すれば動けて楽しめることを皆さんに見て貰いたいです。
- ・子育て支援を継続的に取り組みたいです。
- ・親や教育関係者の方に体験してほしいです。

取材を終えて…まちコの感想

- ・人生100年時代、マジカルスクールは子供達だけでなく大人向け版も『あり』と感じました。リーダーの立川さん、短時間の取材で垣間見たのは苦勞の連続だった人生。子は宝フェスに行き着いた原動力の一つは人との出会いと本人の前に進みたい気持ちが鍵だと感じました。スタッフの皆さんも楽しそうに、自立&自律して動いているように見えたのが印象的でした。（桑畑）
- ・遠方（北海道、新潟など）から、友人知人の口伝で参加した方が多く、刈谷の方が少なかったのが少し残念でした。立川さんの人脈のすごさにも驚きました。今後の活躍が楽しみです。自分の求めていたことに出会えたとのこと、私もこのような機会をいただき感謝します（水鳥）